

# 四半期報告書

(第35期第1四半期)

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	7
第4 【経理の状況】 .....	8
1 【四半期連結財務諸表】 .....	9
2 【その他】 .....	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	21

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月12日

【四半期会計期間】 第35期第1四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

【会社名】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

【英訳名】 ITOCHU Techno-Solutions Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 菊地 哲

【本店の所在の場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 (03)6203-5000(代表)

【事務連絡者氏名】 主計部長 矢板 邦彦

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 (03)6203-5000(代表)

【事務連絡者氏名】 主計部長 矢板 邦彦

【縦覧に供する場所】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 大阪支店  
(大阪市北区梅田三丁目1番3号)

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 名古屋支店  
(名古屋市中区錦一丁目5番11号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第1四半期 連結累計期間	第35期 第1四半期 連結累計期間	第34期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	65,651	65,248	322,475
経常利益 (百万円)	2,653	432	27,340
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失(△) (百万円)	1,253	△281	16,025
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,345	367	17,391
純資産額 (百万円)	152,057	161,077	165,980
総資産額 (百万円)	242,278	254,063	270,025
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損 失金額(△) (円)	20.82	△4.74	268.53
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	62.6	62.9	61.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△8,674	△6,874	9,691
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,229	△4,648	△10,321
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△8,102	△3,169	△11,114
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	59,843	51,457	66,133

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第34期第1四半期連結累計期間及び第34期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、また第35期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、かつ潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当社グループは、当社、当社の親会社、子会社13社及び持分法適用関連会社5社により構成されており、コンピュータ・ネットワークシステムの販売・保守、ソフトウェア受託開発、データセンターサービス、サポート等を行っております。

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報」の「II 当第1四半期連結累計期間 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円高の是正に伴い輸出環境が改善する中、企業の業況判断は幅広い業種で改善の動きが見られ、景気回復への期待が高まりつつあります。

情報サービス産業においては、証券市場の活性化や大規模システム統合等に伴う需要が拡大しつつある金融分野等ではIT投資が好調に推移したものの、全体的には企業のIT投資は検討段階に留まり、ビジネス環境は厳しい状況で推移いたしました。

このような状況下、当社グループにおきましては、平成26年3月期を「もう一段上へのレベルアップと持続的な成長実現のための基盤強化の年」と位置付け、収益拡大のための施策や、中長期的な成長に向けた取り組みを推進しております。具体的には、サービスビジネスの更なる拡大に向け、平成25年4月に横浜コンピュータセンターの敷地内にデータセンター新棟を開設したほか、ASEANでの事業展開強化を目的に買収・子会社化したCSC ESI SDN. BHD. (マレーシア)及びCSC AUTOMATED PTE. LTD. (シンガポール)の2社については、商号変更(それぞれCTC GLOBAL SDN. BHD.及びCTC GLOBAL PTE. LTD.へ変更)や人材交流など、一体感醸成に向けた諸施策を行い、名実ともに当社グループのASEANにおける重要拠点として稼働を始めております。

営業活動につきましては、金融分野では銀行向け市場系・情報系・国際系システム構築案件などに注力したほか、商業・運輸分野では郵便会社向けインフラ構築案件や、流通向け基幹系システム等の構築に注力しました。また海外においても、東南アジア地域において、金融向けなどを中心に製品ビジネスを推進いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、サービスビジネスが増加したものの、製品及び開発ビジネスが減少し、売上高は65,248百万円(前年同期比0.6%減)となりました。利益面では、売上総利益率の低下や、海外子会社を中心とした販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は352百万円(同86.6%減)、経常利益は432百万円(同83.7%減)となりました。また、四半期純損益につきましては、281百万円の四半期純損失(前年同期は1,253百万円の利益)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を変更しているため、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は変更後の区分方法に基づいております。

①情報通信事業

携帯キャリア向けの設備増強案件等が減少し、売上高は21,600百万円(前年同期比25.1%減)、営業利益は1,194百万円(同64.7%減)となりました。

②金融・社会インフラ事業

メガバンクや郵便会社向け案件等が伸長し、売上高は8,534百万円(同17.0%増)となりましたが、売上総利益率の低下や販売費及び一般管理費の増加により、営業損益は229百万円の営業損失(前年同期は170百万円の営業利益)となりました。

③エンタープライズ事業

運輸や製造向け案件等が伸長し、売上高は14,864百万円(同3.5%増)、営業利益は60百万円(同589.7%増)となりました。

④流通事業

商社向けや石油元売会社向け案件等が減少し、売上高は11,219百万円(同7.4%減)となりましたが、売上総利益率の改善、販売費及び一般管理費の減少により、営業利益は845百万円(同89.7%増)となりました。

⑤クラウドプラットフォーム事業

当セグメントは、データセンターを含むクラウド関連ビジネスを全社横断的に提供しており、売上高は7,899百万円(同4.7%増)、営業利益は336百万円(同21.7%減)となりました。

⑥保守・運用サービス事業

当セグメントは、保守・運用を中心としたサービスビジネスを全社横断的に提供しており、売上高は13,667百万円(同1.9%減)、営業利益は1,826百万円(同7.5%減)となりました。

⑦その他

海外子会社の連結子会社化により、売上高は7,965百万円(同257.5%増)、営業損益は31百万円の営業損失(前年同期は230百万円の営業損失)となりました。

(注) 上記セグメントの売上高及び営業利益は、セグメント間の内部売上高等を含めて表示しております。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて15,961百万円減少し、254,063百万円となりました。これは、主に前払費用が7,059百万円、商品が5,775百万円、仕掛品が3,979百万円増加したものの、有価証券が20,999百万円、受取手形及び売掛金が16,317百万円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて11,059百万円減少し、92,986百万円となりました。これは、主に前受収益が7,002百万円増加したものの、未払法人税等が7,569百万円、支払手形及び買掛金が5,226百万円、賞与引当金が4,706百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて4,902百万円減少し、161,077百万円となりました。これは、主に配当金の支払による減少が3,272百万円あったこと、「退職給付に関する会計基準」及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」を当第1四半期連結会計期間の期首より一部早期適用したことに伴い、退職給付に係る調整累計額を△1,848百万円計上したことによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ14,676百万円減少し、51,457百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な内容は、次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、使用した資金は6,874百万円となりました。これは、売上債権の増減により16,357百万円の資金回収があったものの、たな卸資産の増減により9,523百万円、仕入債務の増減により5,272百万円、法人税等の支払により7,593百万円の資金使用があったこと等によるものであります。

前第1四半期連結累計期間との比較では、仕入債務の増減額による資金使用が2,397百万円増加したものの、売上債権の増減額による資金回収が4,726百万円増加したこと等により、使用した資金は1,800百万円減少しております。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は4,648百万円となりました。これは、有形固定資産の取得で4,091百万円、無形固定資産の取得で476百万円の資金使用があったこと等によるものであります。

前第1四半期連結累計期間との比較では、有形固定資産の取得による支出が3,377百万円増加したこと等により、使用した資金は3,419百万円増加しております。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は3,169百万円となりました。これは、セール・アンド・リースバックによる収入が737百万円あったものの、ファイナンス・リース債務の返済が546百万円、配当金の支払が3,278百万円あったこと等によるものであります。

前第1四半期連結累計期間との比較では、自己株式の取得による支出が5,001百万円減少したこと等により、使用した資金は4,933百万円減少しております。

## (4) 研究開発活動

当社グループの当第1四半期連結累計期間における研究開発費は、71百万円（情報通信事業50百万円、その他20百万円）であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	246,000,000
計	246,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	62,500,000	62,500,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株でありま す。
計	62,500,000	62,500,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	—	62,500	—	21,763	—	33,076

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日(平成25年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,996,600	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 59,438,200	594,382	—
単元未満株式	普通株式 65,200	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	62,500,000	—	—
総株主の議決権	—	594,382	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が1,200株含まれております。  
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数12個が含まれております。  
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式13株が含まれております。

### ② 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	東京都千代田区霞が関 3-2-5	2,996,600	—	2,996,600	4.79
計	—	2,996,600	—	2,996,600	4.79

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第5条第1項ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

また、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	31,914	33,181
受取手形及び売掛金	66,882	50,565
有価証券	33,997	12,998
商品	13,427	19,203
仕掛品	5,347	9,327
保守用部材	6,588	6,422
前払費用	22,317	29,377
その他	25,534	30,665
貸倒引当金	△94	△20
流動資産合計	205,917	191,721
固定資産		
有形固定資産	34,719	34,444
無形固定資産		
のれん	4,129	5,043
その他	7,053	6,701
無形固定資産合計	11,182	11,745
投資その他の資産		
その他	18,271	16,215
貸倒引当金	△63	△63
投資その他の資産合計	18,207	16,152
固定資産合計	64,108	62,342
資産合計	270,025	254,063
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,484	21,257
未払法人税等	7,803	233
前受収益	20,269	27,271
賞与引当金	7,566	2,860
受注損失引当金	308	351
アフターコスト引当金	368	342
その他	23,827	24,300
流動負債合計	86,627	76,617
固定負債		
退職給付引当金	575	—
退職給付に係る負債	—	570
資産除去債務	1,448	1,455
その他	15,395	14,343
固定負債合計	17,418	16,369
負債合計	104,045	92,986

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,763	21,763
資本剰余金	33,076	33,076
利益剰余金	118,506	114,952
自己株式	△10,370	△10,371
株主資本合計	162,975	159,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,610	1,885
繰延ヘッジ損益	△2	7
為替換算調整勘定	58	242
退職給付に係る調整累計額	—	△1,848
その他の包括利益累計額合計	1,666	286
少数株主持分	1,338	1,371
純資産合計	165,980	161,077
負債純資産合計	270,025	254,063

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	65,651	65,248
売上原価	49,028	49,587
売上総利益	16,623	15,661
販売費及び一般管理費	14,004	15,308
営業利益	2,618	352
営業外収益		
受取利息	15	9
受取配当金	42	41
持分法による投資利益	9	15
その他	47	69
営業外収益合計	115	136
営業外費用		
支払利息	43	39
投資事業組合運用損	10	7
その他	26	8
営業外費用合計	79	55
経常利益	2,653	432
特別利益		
投資有価証券売却益	18	—
特別利益合計	18	—
特別損失		
固定資産除却損	11	—
減損損失	4	—
訴訟関連損失	173	364
特別損失合計	188	364
税金等調整前四半期純利益	2,483	68
法人税、住民税及び事業税	37	213
法人税等調整額	1,164	40
法人税等合計	1,201	253
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	1,281	△185
少数株主利益	28	96
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,253	△281

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	1,281	△185
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62	275
繰延ヘッジ損益	14	10
為替換算調整勘定	△11	178
退職給付に係る調整額	—	66
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	22
その他の包括利益合計	63	552
四半期包括利益	1,345	367
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,316	253
少数株主に係る四半期包括利益	28	113

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,483	68
減価償却費	1,443	1,752
減損損失	4	—
のれん償却額	—	133
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4	△79
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△4,620	△4,705
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	△341	42
アフターコスト引当金の増減額 (△は減少)	38	△26
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△0	△575
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	577
受取利息及び受取配当金	△57	△50
支払利息	43	39
持分法による投資損益 (△は益)	△9	△15
投資事業組合運用損益 (△は益)	10	7
投資有価証券売却損益 (△は益)	△18	—
固定資産除却損	11	—
売上債権の増減額 (△は増加)	11,630	16,357
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△10,644	△9,523
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,874	△5,272
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,842	△1,820
その他	3,922	3,778
小計	△827	686
利息及び配当金の受取額	89	67
利息の支払額	△43	△34
法人税等の支払額	△7,893	△7,593
営業活動によるキャッシュ・フロー	△8,674	△6,874
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△713	△4,091
有形固定資産の除却による支出	△5	△50
有形固定資産の売却による収入	5	119
無形固定資産の取得による支出	△466	△476
無形固定資産の売却による収入	—	2
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	118	0
投資事業組合からの分配による収入	0	—
預け金の純増減額 (△は増加)	△163	△24
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△122
その他	△3	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,229	△4,648



(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△5,002	△1
セール・アンド・リースバックによる収入	484	737
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△468	△546
配当金の支払額	△3,045	△3,278
少数株主への配当金の支払額	△71	△80
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,102	△3,169
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	15
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△18,008	△14,676
現金及び現金同等物の期首残高	77,852	66,133
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 59,843	※ 51,457

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)が平成25年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できることになったことに伴い、当第1四半期連結会計期間よりこれらの会計基準等(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)を適用し、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債に計上しております。なお、当社グループは、複数の退職給付制度を採用しており、主要な確定給付企業年金制度(当社及び国内連結子会社3社による共同委託契約)については、年金資産の額が退職給付債務を超えるため、退職給付に係る資産として「投資その他の資産」の「その他」に含めて計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首のその他の包括利益累計額が1,915百万円減少しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

従業員の伊藤忠グループ連合共済会住宅融資制度による金融機関からの借入に対する保証

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
従業員	157百万円 (46名)	153百万円 (45名)

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	20,667百万円	33,181百万円
取得日から概ね3ヶ月以内に 償還期限の到来する有価証券	33,997 "	12,998 "
預入期間が3ヶ月以内の預け金	5,178 "	5,280 "
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	— "	△4 "
現金及び現金同等物	59,843 "	51,457 "

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	3,039	50.00	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	21,763	33,076	108,496	△5,370	157,966
当第1四半期連結会計期間末までの変動額					
剰余金の配当			△3,039		△3,039
四半期純利益			1,253		1,253
自己株式の取得				△4,999	△4,999
当第1四半期連結会計期間末までの変動額合計	—	—	△1,786	△4,999	△6,786
当第1四半期連結会計期間末残高	21,763	33,076	106,710	△10,370	151,179

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	3,272	55.00	平成25年3月31日	平成25年6月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	情報 通信 事業	金融・ 社会イ ンフラ 事業	エンタ ープライ ズ事 業	流通 事業	クラウ ドブラ ットフ ォーム 事業	保守・ 運用 サービ ス事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	28,584	7,210	13,893	12,092	1,815	605	64,202	1,449	65,651	—	65,651
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	238	86	469	26	5,726	13,321	19,868	778	20,646	△20,646	—
計	28,823	7,296	14,362	12,118	7,542	13,927	84,070	2,228	86,298	△20,646	65,651
セグメント利益又は 損失(△)	3,381	170	8	445	429	1,974	6,410	△230	6,180	△3,561	2,618

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、科学事業等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,561百万円には、主に全社費用△3,892百万円、セグメント間取引消去325百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	情報 通信 事業	金融・ 社会イ ンフラ 事業	エンタ ープライ ズ事 業	流通 事業	クラ ウド プラ ット フォ ーム 事業	保守・ 運用 サー ビス 事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	21,326	8,502	14,677	11,175	2,014	496	58,193	7,055	65,248	—	65,248
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	273	32	186	43	5,885	13,170	19,591	910	20,502	△20,502	—
計	21,600	8,534	14,864	11,219	7,899	13,667	77,785	7,965	85,750	△20,502	65,248
セグメント利益又は 損失(△)	1,194	△229	60	845	336	1,826	4,033	△31	4,002	△3,650	352

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外子会社及び科学事業等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,650百万円には、主に全社費用△3,812百万円、セグメント間取引消去290百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

平成25年4月1日付の組織変更に伴い、当第1四半期連結会計期間より、従来「エンタープライズ事業」に含まれていた放送分野向け及びISP向けビジネスを「情報通信事業」に、流通分野向けビジネスを「流通事業」にそれぞれ移管し、また「エンタープライズ事業」及び「情報通信事業」の2セグメントに含まれていた公共・公益分野向けビジネスを「金融事業」に移管し、セグメントの名称を「金融事業」から「金融・社会インフラ事業」に変更をしております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	20円82銭	△4円74銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△) (百万円)	1,253	△281
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(百万円)	1,253	△281
普通株式の期中平均株式数(千株)	60,197	59,503

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、また当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、かつ潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月6日

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮 坂 泰 行 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 惣 田 一 弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月12日
【会社名】	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
【英訳名】	ITOCHU Techno-Solutions Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 菊地 哲
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役兼専務執行役員 池田 修二
【本店の所在の場所】	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
【縦覧に供する場所】	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 大阪支店 (大阪市北区梅田三丁目1番3号) 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 名古屋支店 (名古屋市中区錦一丁目5番11号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長菊地哲及び取締役兼専務執行役員池田修二は、当社の第35期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

該当事項はありません。

